

◎ランポン農業開発計画のための技術協力に関する日本国
政府とインドネシア共和国政府との間の協定の有効期間
の延長に関する交換公文

(略称) インドネシアとのランポン農業開発計画のため
の技術協力協定の有効期間延長取極

昭和52年11月12日・ジャカルタで
昭和52年11月12日 効力発生
昭和52年12月19日 告示
(外務省告示第304号)

目次	ページ
インドネシア側書簡	104
協定の有効期間延長	104
日本側書簡	104

インドネシア側書簡

協定の有効期間延長

(ランポン農業開発計画のための技術協力に関する日本国政府とインドネシア共和国政府との間の協定の有効期間の延長に関する交換公文)

(インドネシア側書簡)

(訳文)

書簡をもって啓上いたします。本官は1972年11月14日にジャカルタで署名されたランポン農業開発計画のための技術協力に関するインドネシア共和国政府と日本国政府との間の協定に関し、同協定の有効期間を1980年11月13日まで延長する旨の両政府の代表者の間で最近到達した合意をインドネシア共和国政府に代わって確認する光栄を有します。

本官は、貴官が前記の合意を日本国政府に代わって確認されれば幸いです。

本官は、以下を申し進めるに際し、ここに貴官に向かつて敬意を表します。

1977年11月12日にジャカルタで

インドネシア共和国

農業省食糧作物総局長

アリマッド・アフアンディ

インドネシア共和国駐在

日本国大使館公使 国広道彦 殿

(日本側書簡)

(訳文)

書簡をもって啓上いたします。本官は、本日付けの貴官の次の書簡を受領したことを確認する光栄を有します。

(インドネシア側書簡)

本官は、更に、前記の合意を日本国政府に代わって確認する光栄を有します。

本官は、以上を申し進めるに際し、ここに貴官に向かつて敬意を表します。

1977年11月12日にジャカルタで

日本国大使館公使 国広道彦

農業省食糧作物総局長

アハマッド・アフアンディ殿

日本側書簡

(Indonesian Note)

Jakarta, November 12, 1977.

Sir

With reference to the Agreement between the Government of the Republic of Indonesia and the Government of Japan concerning Technical Cooperation for the Lampung Agricultural Development Project (Proyek Tani Makmur Lampung) signed at Jakarta on November 14, 1972, I have the honour to confirm, on behalf of the Government of the Republic of Indonesia, the agreement reached recently between the representatives of the two Governments that the above-mentioned Agreement be extended until November 13, 1980.

I should be grateful if you would be good enough to confirm, on behalf of the Government of Japan, the agreement set out above.

I avail myself of this opportunity to extend to you the assurance of my high consideration.

(Signed) Achmad Affandi
Director General for Food Crop
Agriculture, Department of
Agriculture of the Republic of
Indonesia

Mr. M. Kunihiro
Minister of the Embassy of Japan.
In the Republic of Indonesia
JAKARTA.

(Japanese Note)

Jakarta, November 12, 1977.

Sir,

I have the honour to acknowledge the receipt of your note of today's date, which reads as follows:

(Indonesian Note)

I have further the honour to confirm, on behalf of the Government of Japan, the agreement set out above.

I avail myself of this opportunity to extend to you the assurance of my high consideration.

(Signed) Michihiko Kunihiro
Minister
The Embassy of Japan.

Mr. Achmad Affandi
Director General for Food
Crop Agriculture,
Department of Agriculture
JAKARTA

(参 考)

この取極は、1972年11月14日に署名されたインドネシアとのランポン農業開発計画協定（昭和47年2国間条約集第2188号参照）の有効期間が本年11月18日をもって終了するが、引き続き改良農業技術の普及と食糧増産により農民所得の向上を図ることが必要なので、同協定を更に8年間延長することにつき取決めたものである。

4. ランボン農業開発計画協定延長後の基本計画（英文）

4.1 THE MASTER PLAN OF THE PROJECT.

The Project consists of the following three sub-projects :

Sub-project I : The Tegineneng Center.

The existing Center at Tegineneng, Lampung, will function as a center for strengthening of multiplication of qualified seeds and their distribution, and strengthening of pest and diseases control activities through plant protection services improvements at the farm level.

Its activities to be carried out in connection with the Rural Extension Centers, for the smooth and effective implementation of the agricultural development scheme in Lampung Province, are as follows :

- A. Collection and analysis of data and information with regard to farming techniques and agricultural economics, development and publication of extension resources and/or materials, and organization and operation of related seminars;
- B. Verification trials and laboratory experiments of improved agricultural techniques for food crops, including systematic farming practices based on the cropping pattern established, mechanization, pests and diseases control and improved water management at the farm level on the facilities of the Center;
- C. Training of officers of District/Sub-District Agriculture Service (including field extension workers and subject matter specialist) and operation and maintenance of training plots and workshop in the Center;
- D. Multiplication of qualified seeds and their distribution;
- E. Exchange of information on common technical problems with the CRIA (Central Research Institute for Agriculture), universities, and agricultural joint ventures;
- F. Formulation and development of extension activities, in cooperation with Agricultural Information Center, to disseminate improved farming techniques through the Rural Extension Centers;
- G. Other necessary activities for the promotion of agricultural development in the Province.

Sub-project II : Lowland Farming Development.

This Sub-project will be implemented in the lowland farming areas in Lampung Province, with the following activities :

- A. Guidance and advice for the Rural Extension Centre and Officials involved in agricultural development on water management at the farm level and mechanization for introducing multiple cropping, rice processing, storage and marketing for selected areas in the Province. Priority will be given to the demonstration area of about 100 hectares in Kecamatan Punggur, where consolidation works have been completed.
- B. Technical guidance on plant protection measures and on water management at the farm level in the areas where major irrigation facilities have properly been built.

Sub-project III : Upland Farming Development.

This Sub-project will be implemented in upland farming areas in Lampung Province, with the following activities :

- A. Guidance and advice for the Rural Extension Centers and officials involved in agricultural development on improved farming techniques for selected areas in the Province, with emphasis on the demonstration activities on the area of about 5.000 hectares in five Kecamatans in both Central and South Lampung.
- B. Any necessary demonstration activities for promotion of mechanized farming -in-group.

4-2 (日本文)

基本計画の対比表

当初基本計画 (1972.11 ~ 1977.11)	延長後基本計画 (1977.11 ~ 1980.11)
<p style="text-align: center;">基本計画</p> <p>計画は次の3つの小計画からなる。</p> <p>小計画I 農業普及センター(附属農場を含む)</p> <p>現存のテギネネンにあるとうもろこしセンターが農業普及センター(附属農場を含む。)(以下「センター」という。)として改組され、ランボン州におけるインドネシア共和国政府の農業開発構想を円滑かつ効果的に実施するため次の活動が行われる。</p> <p>(a) 農業経営に関する資料収集、分析及び情報提供</p> <p>(b) 前記の農業開発構想の企画及び実施に必要な技術上の指導及び助言</p> <p>(c) 米及びその他の作物に関する近代農業技術(土壌保全、末端かんがい、水管理及び農機具の改良に関するものを含む。)の圃場試験及び演示</p> <p>(d) 農業の機械化を含む改良農業技術に関する普及員及び中核農民に対する訓練</p> <p>(e) インドネシア共和国政府の政策及び計画の枠内における優良種苗の増殖及び配布</p> <p>(f) 農業の促進に必要なその他の活動</p>	<p style="text-align: center;">基本計画</p> <p>計画は次の3つの小計画からなる。</p> <p>小計画I テギネネンセンター</p> <p>現存のランボン州テギネネンにあるセンターは優良種苗の増殖配布の強化と農家段階における作物保護活動の強化を通じた病虫害防除強化のためのセンターとして機能する。農村普及センター(RECS)との関連において、また、ランボン州における農業開発計画を円滑かつ効果的に実施するべく、次の活動が行われる。</p> <p>A. 農業技術、農業経済に関する資料・情報の収集及び分析、普及素材の開発供給及び関連するセミナーの実施</p> <p>B. 食用作物に関する改良農業技術(確立された体系にもとづく営農実施、機械化、病虫害防除、農家段階での水管理に関するものを含む)の圃場及び実験室での試験</p> <p>C. 普及員、REC職員及び中核農民に対する訓練の実施と訓練圃場、ワークショップの維持管理</p> <p>D. 優良種苗の増殖及び配布</p> <p>E. CRIA(中央農研)、大学及び農業関係合弁企業との共通する技術的問題に関する情報の交換</p> <p>F. RECを通じて実施される普及活動の企画立案</p> <p>G. 州における農業開発の促進に必要なその他の活動</p>

小計画Ⅱ 低地農業開発

この計画は中部ランポン州における10の郡の低地農業地域において実施され、ブンゲール郡に約100ヘクタールの演示農場、及び中部ランポン州における低地農業普及活動を促進するため同地域に約5ヘクタールの演示農場約40が設置される。これらの演示農場は低地農業の普及の基礎として機能する。次の活動が演示農場において総合的に行われる。

- (a) 改良稲作及び多毛作技術（センターにおける圃場試験の結果に基づいた農業のインフラストラクチャーの改良及び調整に関するものを含む）の導入及び演示
- (b) 中部ランポン州の農民に対する改良農業技術の普及
- (c) 農民に対する改良農業技術の普及
- (d) 農民グループの組織化及び強化
- (e) 農業資材の健全な分配組織及び農業信用組織の促進
- (f) センターにおける分析の結果を利用した農民に対する農業経営に関する指導

小計画Ⅲ 高地農業開発

この小計画は、中部及び南部ランポン州の高地農業地域において実施され、とうもろこし、豆類、カッサバ及び多年生作物のような高地農作物を対象とする。次の活動が、5郡の約5千ヘクタールの地域において実施される。この地域においては、約100ヘクタール毎に1試験区（約0.3ヘクタール）が設置される。

小計画Ⅱ 水田農業開発計画

この小計画にあつては、ランポン州の水田地帯における次のような活動を実施する。

- A. REOならびに農業開発に係る職員に対して、中部ランポンブンゲール郡の約100haの圃場整備地域における演示を重点項目とし、州内の選定された地域における多毛作を目的とした農家段階での水管理と機械化及び米の加工、貯蔵、流通に関する指導助言を行なう
- B. ランポン州のかんがい基幹施設が十分に整った地域における末端水管理についての技術指導

小計画Ⅲ 畑作農業開発計画

この小計画にあつては、ランポン州の畑作地帯における次のような活動を実施する。

<p>(a) 改良農業技術（センターにおける圃場試験の結果に基づいた調整及び作付体系に関するものを含む）の導入及び演示</p> <p>(b) 中部及び南部ランポン州の農民に対する改良農業技術の普及</p> <p>(c) 農民に対する改良高地農業技術の普及</p> <p>(d) グループ活動のための農民グループの組織化</p> <p>(e) 農産物の健全な分配組織及び農業信用組織の促進</p> <p>(f) センターにおける分析の結果を利用した農民に対する農業経営に関する指導</p>	<p>A. RECならびに農業開発に係る職員に対して、中部及び南部ランポンの5郡約5,000 haにおける演示を重点項目とし、州内の選定された地域における改良農業技術に関する指導助言を行なう。</p> <p>B. 協業機械化農業の促進のための演示</p>
---	---

5. プロジェクト実施経緯

(1) 主要経年表

年月日	昭和年	内 容
1964. 4	39	インドネシア、第一次経済開発5ヶ年計画開始
1970.11～12	45	とうもろこし開発基礎調査実施
1971. 3	46	インドネシア政府、ランポン州の農業開発計画をIGGI LIST にリストアップする。
6	〃	日-イ 両政府間における イ政府の援助要請に関する交渉においてラ ンポン州での農業開発計画を取り上げることに合意する。
8.22	〃	「ランポン州農業開発計画基礎調査」実施 団長：吉原平二郎（海外技術協力事業団理事） 城下 勉（農林省東北農業試験場長） 他9名
1972. 2	47	長期調査員 2名 { 野島教馬（農林省農事試験場） 大島幸夫（〃 国際協力課）
3.7～4.15	〃	「ランポン農業開発計画実施調査」実施 団長：安尾 俊（農林省普及部長） 他9名 4月11日 R/D（合意議事録）締結
9.1～ 10.14	〃	「ランポン農業計画実施設計調査」実施 団長：田中 基雄（農林省普及部長） 他9名
11.14	〃	ジャカルタにおいて「ランポン農業開発計画のための技術協力に関する 日本国政府とインドネシア共和国政府との間の協定」締結
1973. 3	48	専門家の派遣、供与機材の送付開始
1974. 2.3～ 2.23	49	「ランポン農業開発計画巡回指導調査」実施 団長：田中 基雄（農林省普及部長） 他5名
1975.2.12～ 3.4	50	「ランポン農業開発巡回指導調査」実施 団長：菅生 教馬（元インドネシア西部ジャワ食糧増産計画 チームリーダー） 他5名
1976. 3.4～ 3.21	51	「ランポン農業開発計画巡回指導調査」実施 団長：長谷川新一（甘味資源協会理事長） 他3名
1976. 6.1～ 7.5	51	「ランポン農業開発計画合同中間エバリュエーション調査」実施 団長：紙谷 貢（農林省農業総合研究所海外部長） 他5名
1977. 6.7～ 6.30	52	「ランポン農業開発計画合同エバリュエーション調査」 団長：紙谷 貢（農林省農業総合研究所海外部長） 他5名
1978.10.19～ 11.2	53	「ランポン農業開発計画巡回指導調査」 団長：水上 泰介 他4名

調査団派遣実績

(1) 基礎調査

1971年8月22日～9月21日

氏名	担当業務	所 属
吉原平二郎	団 長(前半)	海外技術協力事業団 理事
城下 強	" (後半)	農林省東北農業試験場々長
八田貞夫	栽 培(水稻)	農林省熱帯農業研究センター企画連絡室長
紙谷 貢	農 業 経 済	農林省農業総合研究所東南アジア研究室長
中島哲生	かんがい	農林省農地局かんがい排水課課長補佐
中江克己	農 業 機 械	農林省東北農業試験場機械化作業第1研究室長
大島幸夫	農 業 経 営	農林省農林経済局国際協力課
阿部幹夫	栽 培(畑作)	農林省北海道農業試験場
嶽石浩之	農 業 機 械	農林省農政局肥料機械課
平井達之	ポンプかんがい	財団法人日本農業土木コンサルタンツ設計4課
後藤亮之助	連 絡 調 整	海外技術協力事業団農業協力部計画調整課

(2) 実施調査

1972年3月7日～4月15日

氏名	担当業務	所 属
安尾 俊	団 長	農林省農政局普及部長
宮坂 昭	稲 作 栽 培	農林省農事試験場作物部第6研究室長
杉本清治	農 業 機 械	農林省農事試験場畑作部機械化研究室長
坂田公男	畑 作 栽 培	農林省熱帯農業研究センター主任研究官
大脇知芳	農 業 経 済	農林省大臣官房調査課調査専門官
吉田茂政	普 及	農林省農政局普及部普及教育課長補佐
安田主計	流 通	通産省貿易振興局輸出業務課長補佐
松原良夫	企 画	海外技術協力事業団開発技術協力室長
田内 堯	農 業 土 木	海外技術協力事業団農業協力部技術副参事
亀田育男	調 整	海外技術協力事業団開発技術協力室副参事

(3) 実施設計調査

1972年9月1日～10月14日

氏名	担当業務	所 属
田中基雄	団 長	農林省農政局普及部長
平野勇二	副 団 長 計 画 一 般 かんがい	関東農政局設計課 設計官
田中 堯	排水計画	海外技術協力事業団農業協力部
西岡 公	圃場整備	JIRCO技術部長
平井達之	構造物設計	” 設計課
佐藤 武	水路設計	” ”
武石 茂	農道設計	” ”
根田順二	水 文	” ”
渡辺登生	渉 外	海外技術協力事業団農業協力部
(協)杉田秀雄	積算、施工	JIRCO設計課

(4) 巡回指導調査

1974年2月3日～2月23日

氏名	担当業務	所 属
田中基雄	団 長	農林省農蚕園芸局普及部長
稲村 宏	畑作栽培	農林省農業技術研究所生理遺伝部長
小林隆史	営農計画	農林省九州農政局計画部資源課長
松崎 昭	協力企画	農林省農林経済局国際部国際協力課
高橋 昇	圃場整備	農林省近畿農政局建設部設計課
田辺耕治	調 整	海外技術協力事業団農業協力部業務課

(5) 巡回指導調査

1975年2月12日～3月4日

氏名	担当業務	所属
菅生 数馬	団長(総括)	元インドネシア西部ジャワ食糧増産計画チームリーダー
浅川 正彦	団員(栽培)	農林省東北農業試験場企画連絡室長
大畠 幸夫	団員(企画)	国際協力事業団農業開発協力部農業開発課長
大丸 章人	団員(農業普及)	国際協力事業団特別囑託職員
岡野 英次	団員(かんがい)	農林省農林経済局国際協力課
宮崎 健	団員(業務調整)	国際協力事業団農業開発協力部農業開発課

(6) 巡回指導調査

1976年3月4日～3月21日

氏名	担当業務	所属
長谷川 新一	団長	甘味資源振興会技術顧問 前農林省野菜試験場長
西脇 重義	協力企画	農林省農林経済局国際協力課
田中 慎	普及計画	農林省農蚕園芸局普及教育課
狩野 良昭	調整	国際協力事業団 農業開発協力部 農業技術協力課

(7) 中間エバリュエーション調査

1976年6月1日～7月5日

氏名	担当業務	所属
紙谷 貢	団長	農林省農業総合研究所海外部長
勝又 建治	農業普及	静岡県農業水産部農業技術課主任専門技術員
小川 義彦	農業経営	農林省九州農政局筑後川水系農業水利調査事務所調査第一課長
橋本 栄治	業務調整	国際協力事業団農業開発協力部農業技術協力課

(8) 合同エバリュエーション調査

1977年6月7日～6月30日

氏名	担当業務	現職
紙谷 貢	団 長	農林省農業総合研究所 海外部長
窪谷 順次	経 済 分 析	農林省農業総合研究所 地域研究室長
坂本 敏	栽 培	農林省九州農業試験場 作物第2部作物第2研究室長
村上 有孝	農 業 普 及	農林省農蚕園芸局普及部 普及教育課青少年教育係長
中西 一継	か ん が い	農林省構造改善局建設部 設計課農業土木専門官
橋本 栄治	業 務 調 整	国際協力事業団 農業開発協力部 農業技術協力課

(9) 巡回指導調査

1978年10月19日～11月2日

氏名	担当業務	所 属 先
水上 泰介	団長兼農業経営	農林水産省農林水産技術会議 事務局研究管理官
広瀬 昌平	栽 培 (病虫害管理)	日本大学農獣医学部 短期大学部教授
芝田 博	農 業 普 及	農林水産省東海農政局 農産普及課長
上杉 健	協 力 企 画	農林水産省経済局 国際協力課課長補佐
谷川 和男	業 務 調 整	国際協力事業団農業開発協力部 農業技術協力課課長代理

6. Brief Report on Technical Guidance

For

Lampung Tani Makmur Project

(Lampung Agricultural Development Project)

November, 1978

Japan International Cooperation Agency

I. Introduction

With the 3-year extension of the Agreement for the Lampung Tani Makmur Project, the new Master Plan was formulated in May, 1978.

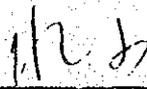
With a view to discussing the detailed part of the Master Plan as well as existing problems in implementing the Project, the Japanese Technical Guidance Team had the opportunity to visit and observe the Lampung Agricultural Development Project with the duration from October 22 to November 3, 1978.

It is indeed a great pleasure that the Team could successfully accomplish their duty. Every survey was made possible by the sincere cooperation of all the staff and the Japanese experts who are concerned with the Project. The Team would like to express their hearty thanks to all of them for the hospitality.

The member list of the Team was as follows :

Team Leader	Mr. Taisuke MIZUKAMI
Agronomy	Dr. Shohei HIROSE
Agricultural Extension	Mr. Hiroshi SHIBATA
Cooperation Planning	Mr. Ken UESUGI
Coordination	Mr. Kazuo TANIGAWA

November 3, 1978.



Taisuke MUZUKAMI
Team Leader,
Japanese Technical
Guidance Team
for
Lampung Tani Makmur
Project

II. Brief Report

1. Upland

There still remain several problems to be improved in future.

1) Establishment of Cropping System

This requires a lot of trials such as selection and combination of crops which will be suitable for the local condition.

2) Enhancement of Productivity

The present controversial issues will be (1) distribution of qualified seeds and (2) dissemination of techniques for application of fertilizer and pests and disease control.

3) Clearnace of Alang-Alang area

From the standpoint of increasing the farm household income, the clearance of idle area will be essential for the expansion of management scale in spite of its difficulties.

The Team had a chance to see one of transmigrants from Java when they said it took toils and sweats in clearing the land.

They say it takes more than 180 days by manpower or can be reduced to 60 days by use of draft animals in order to clear one hectare of Alang-Alang area.

Herein as a matter of future step, it is regarded necessary to introduce principally the draft animals for plowing and also to consider by and by farm mechanization. But as matter of fact, the socio-economic factors should well be taken into account.

2. Lowland

After viewing Totakaton area where land consolidation had been completed, we felt as if we were inspecting the site of agricultural structure improvement scheme in Japan.

The proposed questions related to this area are supposedly the encouragement of group farming, examination on the efficient utilization of farm machinery, and also fostering the farmers' organizations including marketing and purchasing issues.

But since the other lowland areas are seemingly limited in expanding its unit area per farm household, the farm management should be improved by way of multiplication.

3. Activities surrounding the Tegineneng Center (Tani Makmur Project)

Here at the Tegineneng Center, various trials for developing extension materials, and laboratory experiments have been carried out and simultaneously much emphasis is placed on seed purification, plant protection and maintenance of farm machinery.

Some recommendations and newly developed technology released by not only CRIA but also other institutions will be examined by the Center on its local adaptability.

Various experimental results and a series of techniques established at this Center are automatically transferred to extension workers through the Japanese experts and the Indonesian counterparts. The so-called transfer of technical know-how as below will be the ultimate target of this Project.

1) From Japanese experts to their counterparts or the subject-matter specialists through the implementation of trials and seminars to be held regularly.

2) From subject-matter specialists to extension workers through technical training and guidance.

3) From extension workers to farmers through implementation of Demonstration Farms and the visit-and-training in the farmers' fields. It is advised that extension workers should have a close contact with farmers tackling with the existing problems together. It is also required to pay attentions to the extension methods how the techniques developed by the Center would be transferred to as many farmers as possible within the Lampung Province where there are approximately 500,000 farm households.

4. General Observations

It may be the fact that the Lampung Tani Makmur Project played the major roles for the past 5 years in terms of developing practical techniques and their transmission to farmers. We hear such achievements so far made will be systematically propagated throughout the Lampung Province.

The main activities of the Project will be centered upon the dissemination of techniques in such fields as both seed production, and pests and disease control based upon various trials.

For assisting such activities, the Indonesian Counterparts have been dispatched to Japan every year for technical training.

The technical cooperation by the mutual Governments should be encouraged furthermore in connection with those lines. Thus at present there are conducted various studies on such a basic issues as how the Lampung Agricultural Development would be smoothly accelerated.

7 THE MINUTE OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE TECHNICAL GUIDANCE TEAM AND THE DIRECTORATE GENERAL OF FOOD CROP AGRICULTURE OF THE REPUBLIC OF INDONESIA CONCERNING THE IMPLEMENTATION OF THE LAMPUNG TANI MAKMUR PROJECT BASED ON THE THREE-YEAR EXTENSION OF THE AGREEMENT

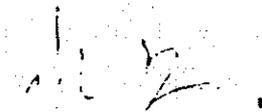
With the aim to discussing the detailed part of the amended Master Plan as well as existing problems in implementing the Project, the Japanese Technical Guidance Team, organized by Japan International Cooperation Agency headed by Mr. Taisuke MIZUKAMI visited and observed the Lampung Tani Makmur Project from October 22 to November 3, 1978.

Attached hereto is the Minute of Discussions between the Technical Guidance Team and the Directorate General of Food Crop Agriculture of the Government of the Republic of Indonesia in Tegineneng, Lampung, on October 30, 1978.

The contents of the attached Minute of Discussions shall not be binding legally either on the Government of Japan or on the Government of Indonesia as the formal recommendations concerning the implementation of the Project. However, the gist of the present Minute of Discussions is understood to serve as the basis of the formal recommendations to be concluded by the Joint Committee of the Lampung Tani Makmur Project.

Tegineneng, October 30, 1978

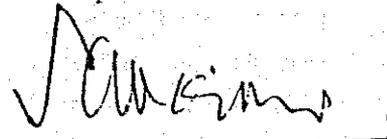
For the Japanese Technical
Guidance Team



Taisuki MIZUKAMI

Team Leader of the Japanese
Technical Guidance for
Lampung Tani Makmur Project

For the Government of the
Republic of Indonesia



SARJONO REKSODIMULYO

Director for Programing
Directorate General of
Food Crop Agriculture

The Member List of The Discussion

JAPANESE TECHNICAL GUIDANCE TEAM

- Mr. Taisuke Mizukami
Team Leader
- Dr. Shohei Hirose
Agronomy
- Mr. Hiroshi Shibata
Agricultural Extension
- Mr. Ken Uesugi
Cooperation Planning
- Mr. Kazuo Tanigawa
Coordination

Japanese Experts for the Lampung
Tani Makmur Project Headed by Dr. T.
Nishizawa

THE DIRECTORATE GENERAL OF FOOD CROP
AGRICULTURE

- Ir. Sarjono Reksodimulyo Director of
Director of Programing as chairman
- Ir. Nusyirwan Zen
Secretary of the Directorate General
of Food Crop Agriculture
- Dr. Sumantri
Team Leader of the Lampung
Tani Makmur Project
- Ir. Kasmu
Rep. of the Directorate of Production
- Ir. Saji Partoatmojo
Rep. of the Directorate of Plant
Protection
- Ir. Amril Abbas
Staff of the Directorate of Programing
- Ir. Kusnadi Affandi
Inspector of Agricultural Service
Lampung Province
- Ir. Soehendi Machdali
Project Manager Lampung Tani Makmur
Project

It was agreed that the draft of the Lampung Tani Makmur Project (hereinafter referred to as "the Project") working plan might be implemented for the coming two years with improvement on the following matters:

1. With regard to the seed provision of lowland rice and upland rice in Lampung Province, it is recommended that the Project will conduct multiplication of improved varieties and their distribution through enhancement of seed growers' productivity.

As for the secondary crops, their varieties might be developed from the local varieties.

It is desirable that the Project will extend a proper technical guidance to the seed growers at the village unit level (Wilayah unit Desa).

2. In connection with the integrated pests and disease control, the Project will conduct various trials focusing on the time and dosage of pesticides application as well as the determination of their kinds used, and at the same time a series of study will be made on the occurrence of pests and diseases.

3. Upland Development Farming

- 3.1 Establishing of cropping system will require a lot of trials such as selection and combination of crops which will be suitable for the local condition.

- 3.2 In connection with enhancement of productivity, some recommended techniques on application of fertilizer, and pests and disease control should be disseminated based on the local situation.

- 3.3 In view of increasing the farm household income, the clearance of the Alang-Alang area will be essential for the expansion of the management scale in spite of its difficulties.

In this regard, it is necessary to introduce principally draft animals for plowing along with a gradual farm mechanization taking the socio-economic factors into account.

4. Lowland Development Farming

- 4.1 In connection with further development of consolidated area in Totokaton, it is suggested to encourage a group farming and the efficient utiliza-

tion of farm machinery. It is also necessary to foster the farmer's organizations for processing, marketing, water utilization, etc..

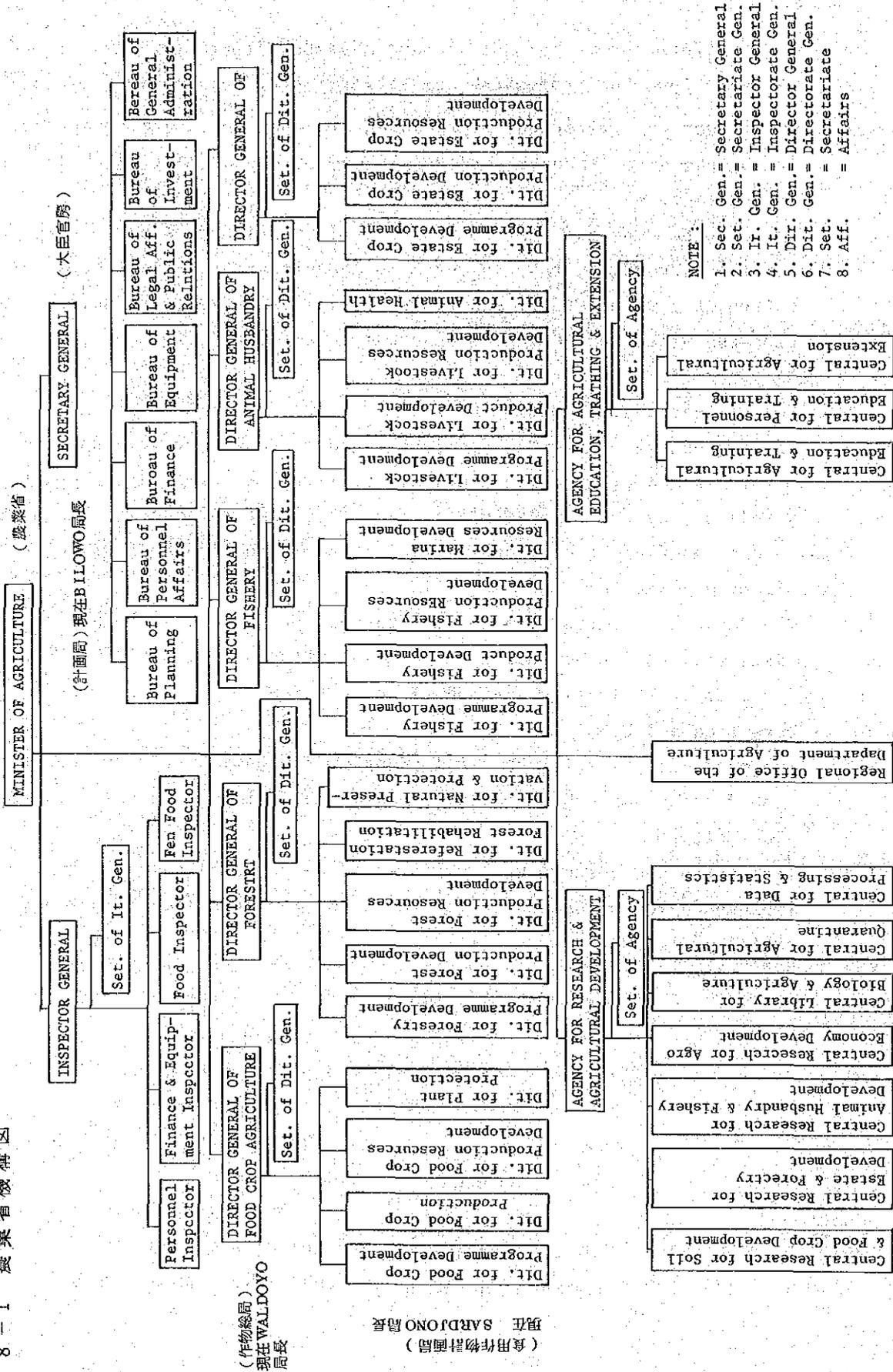
- 4.2 On account of limitation in expanding area per unit farm household, it is suggested to increase farmers' income by way of multiplication of farm management.
- 4.3 It is to be expected that Totokaton will function as a nucleus for farming for the surrounding areas by means of demonstrating the efficient utilization of farm machinery and tools easily available to farmers, irrigation and water management, processing, plant protection, etc..

5. Transfer of Adaptable Technology

The Tegineneng Centre will conduct various trials for developing extension materials and examine its local adaptability for newly developed technology released by CRIA, universities and other institutions. Various trial results and adaptable technology will be disseminated to the farmers through the following channels:

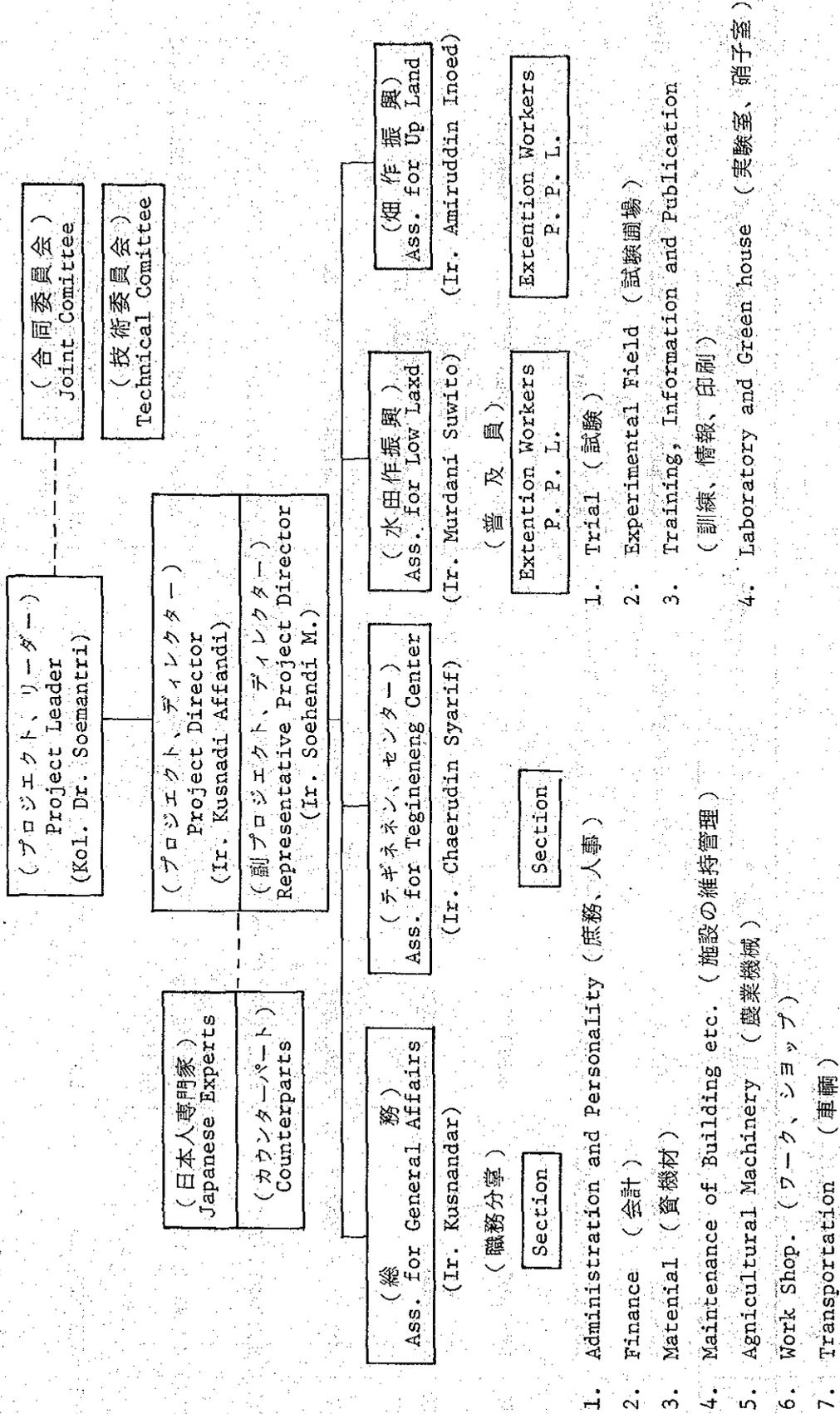
- 5.1 The Japanese experts, Indonesian counterparts and subject-matter specialists will hold a seminar each occasion after a series of trials were completed. It is also advised to invite often experts from CRLA, universities and other institutions.
- 5.2 Subject-matter specialists will transfer the seminar results to extension workers through technical training and guidance in the Rural Extension Centers.
- 5.3 Thus extension workers will transfer such technical know-how through implementation of Demonstration Farms and the so-called "Vair-and-training" in the farmers' fields.

8-1 農業省機構圖



Organization Chart of Lampung Tani Makmur Project
According to SK of Director General of Food Crop Agriculture.
No. SK : I. A5 - 78.41

ラмпン州農業開発プロジェクト機構図
(昭和58年11月28日、食用作物総局長通達)
〔チギネンセンター作図〕

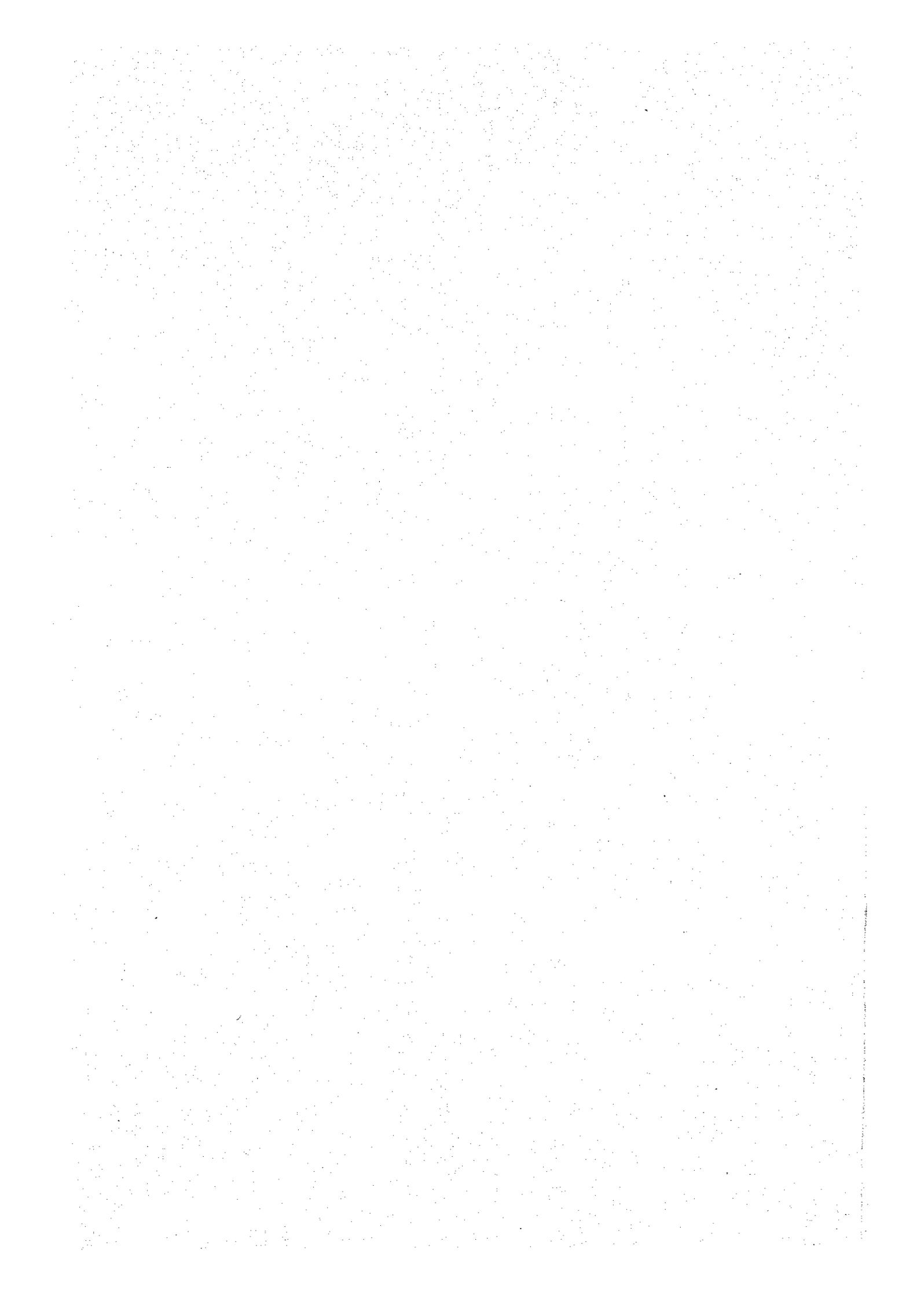


8-3 カウンターパート名簿

	N A M E	SPECIALITY	EDUCATIONAL BACKGROUND	PRESENT POST
I	KUSNADI AFFANDI	AGRONOMY	BOGOR AGRI UNI.	INSPECTOR, DINAS PERTANIAN PROPINSI LAMPUNG
II	SOEHENDI MACHDALI	AGRONOMY	- ditto -	PROJECT MANAGER, TEGINENENG CENTRE
III	CHAIRDDIN	AGRONOMY	- ditto -	ASSISTANT FOR OPERATION & MANAGEMENT
IV	CHAIRDDIN	AGRONOMY	- ditto -	ASSISTANT FOR AGRICULTURAL APPLIED TECHNOLOGY DEVELOPMENT
V	AMILODIN UMAR S. H.	AGRONOMY	- ditto -	ASSISTANT FOR AGRO-ECONOMY
VI	MULDANI SUWITO	SEED CERTIFICATE	- ditto -	ASSISTANT FOR EXTENSION MATERIAL PRODUCTION
VII	KUSNANDAR	PEST & DESEASE CONTROL	- ditto -	ASSISTANT FOR PLANNING & ADMINISTRATION
VIII	SARIMIN	SOIL & FERTILISER	GAJAMADA UNI.	ASSISTANT FOR LABORATORY (SOIL & FERTILISER)
VIX	SJAVAD CON	IRRIGATION & DRAINAGE	ANDALAS UNI.	ASSISTANT FOR IRRIGATION & DRAINAGE
X	WAHYA	AGRICULTURAL MECHANIZATION	BOGOR AGRI UNI.	ASSISTANT FOR WORKSHOP (AGRICULTURAL MECHANIZATION)

8-4 日本人専門家に対するカウンタースタッフ配置状況

日本人専門家		カウンタースタッフ				日本での研修の有無及び時期		備考
分野	氏名	氏名	職名及び地位	勤務地	勤務地	日本での研修の有無及び時期		
チームリーダー	西沢正洋	Dr. Sumantri Ir. Kusnadi Affandi	ランポンタニマムール プロジェクト・リーダー ランポン州農業普及局長	食用作物総局 ランポン州農業普及局	ランポン	S53.6.15 ~ 53.7.5	(中央政府)	
病虫害防除	上田勇吾	Ir. Kusnador	ランポンタニマムール カウンタースタッフ (病 虫害)	ランポンタニマムール プロジェクト	ランポン	S51.2. ~ 51.1.1		
栽培	野田昌治	Ir. Chairuddin Sjarif Ir. Murdami Suwito	ランポンタニマムール カウンタースタッフ ランポンタニマムール カウンタースタッフ (栽 培)	ランポンタニマムール プロジェクト 同上	ランポン	S49.7.29 ~ 50.1.25 S52.5. ~ 52.1.15		
土壌肥料	伊東祐二郎	Ir. Sarimin	ランポンタニマムール カウンタースタッフ (土 壌肥料)	同上	同上	S52.9. ~ 53.2.	(短期派遣専門家)	
稲作普及	杉井裕	Ir. Amiruddin Inoed	ランポンタニマムール カウンタースタッフ (農 業経済)	同上	同上	S52.4. ~ 52.7.		
農業普及	大丸章人	Ir. Marclani Swito Ir. Joko Umar Said Ir. Hanan Zaed	ランポンタニマムール カウンタースタッフ (研 修訓練) ランポン州農業普及専 門員 ランポン州農業普及局 農業普及課長	ランポンタニマムール プロジェクト ランポン農業普及局 ランポン農業普及局	ランポン	S52.5. ~ 52.1.15 S54年度予定 S49.9. ~ 49.12.	(転任)	
農業機械	菅原清吉	Ir. Wakyu Subandrio	ランポンタニマムール カウンタースタッフ (農 業機械)	ランポンタニマムール プロジェクト	ランポン	S53.3.2 ~ 53.1.8		
調整	鐘野紀昭	Ir. Soehendi Machdali	ランポンタニマムール プロジェクト・マネージャー	ランポンタニマムール プロジェクト	ランポン	S53.6.15 ~ 53.7.5		



JICA